

第4回 北浦水質改善計画検討会 議事概要

1. 日時

令和4年2月24日(木) 14:00~16:00

2. 場所

霞ヶ浦環境科学センター 多目的ホール (WEB併用)

3. 出席者(順不同)

(委員)

筑波大学名誉教授 福島 武彦 (座長)

茨城大学農学部 地域総合農学科 教授 黒田 久雄

東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 木内 豪

国立研究開発法人 国立環境研究所 地域環境保全領域

環境管理技術研究室 シニア研究員 富岡 典子

国立研究開発法人 国立環境研究所 生物多様性領域

生態系機能評価研究室 室長 松崎 慎一郎

国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究グループ

河川生態チーム 上席研究員 (兼 自然共生研究センター長) 中村 圭吾

国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究グループ 水質チーム 上席研究員 山下 洋正

(欠席: 茨城大学 地球・地域環境共創機構 流域圏環境部門 助教 増永 英治

国立研究開発法人 国立環境研究所 気候変動適応センター

気候変動影響観測研究室 室長 西廣 淳)

(行政委員)

茨城県 県民生活環境部 環境対策課 課長 江幡 一弘

独立行政法人 水資源機構 利根川下流総合管理所 所長 小島 幸康

国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所 所長 小櫃 基住

(事務局)

国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所

4. 議事

8期湖沼水質保全計画について(報告)

施設配置に向けた北浦の流動等特性把握調査について

今後の施設整備案の検討方針について

5. 議事要旨

■施設配置に向けた北浦の流動等特性把握調査について

- ・懸濁態物質が実際に嫌気状態にさらされた時にどの程度湖水に溶出するかについて特性の把握が必要である。
- ・突堤等構造物による懸濁態物質の挙動変化の実例を把握することが、対策を検討する上で重要である。
- ・今後調査を行い、流動変化と底泥の再浮動の同時性や懸濁物質の湖内における時系列の動きを捉えることについて検討する。
- ・巴川や銚田川でこれまでに実施されている濁度の連続観測結果の確認・整理を行い、季節的な変動とその要因の分析を行うことで、流域での対策の有用性を検討する。

- ・風波の影響をとらえるために波高は観測したほうがよい。施設による水害リスクへの影響評価の観点からも波高観測は必要である。
- ・調査の解析では、安塚自動観測所の濁度等連続観測データも活用する。
- ・底層溶存酸素も連続観測により詳細に把握したほうがよい。

■今後の施設整備案の検討方針について

- ・施設設置については、洪水流の阻害、周辺の船溜まりへの影響、環境保全、水産資源への影響などの制約条件について、整理したうえで検討を進める。
- ・現状でも堆積しやすい条件にあると考えられる箇所について、沈降・堆積を促進させる整備の方向性が考えられる。このような箇所に、窒素対策への寄与をわずかでも期待して植生帯を増やすことも良いだろう。
- ・細粒土砂が溜まりすぎることによる影響を考え、折り合いをつけるデザインにしていってほしい。
- ・現実的に実施できる維持管理を想定して、施設計画や設計を考えておくことが合理的である。
- ・滞留しやすい箇所を作ることによるアオコの発生に留意すべきである。

以上



会議は、WEB参加により会場での密集を防ぎ、会場への参加者はマスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、除菌等による感染対策を実施して開催しました。